

2021 (令和3年) 1/22 金曜日

小学生新聞

MAINICHI

発行所 毎日新聞東京本社 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1

配達お問い合わせ 購読お申し込み

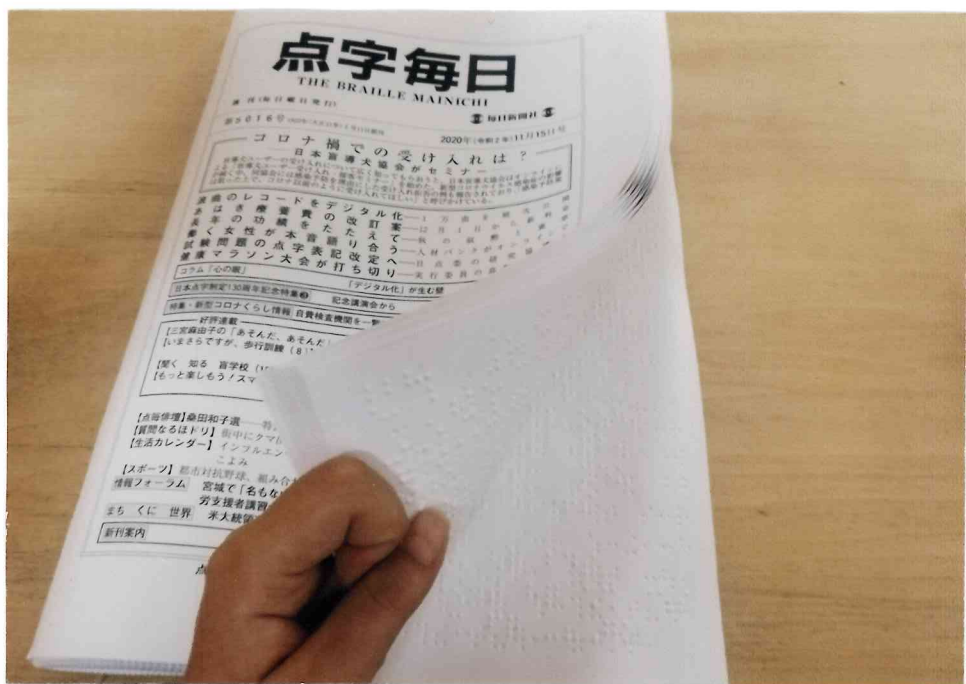
0120-468-012 (6-21時、一部地域は平日10-18時)



定価 1か月1750円 (本体1620円、消費税130円)・1部70円

毎日小学生新聞編集部
郵便 〒100-8051 (住所不要)
ファクス 03-3212-2591 電話03-3212-0321
メール maishou@mainichi.co.jp

世界で唯一!? 点字新聞



「点字」毎日の佐木記者
「みんなに情報届けたい」
みなさんは点字の新聞を
知っているだろうか。そんなの
あるの? と思おうかもしれない
がある。毎日新聞社が発行
する、「点字と毎日」だ。1922年
からの長い歴史も持っ
ている。

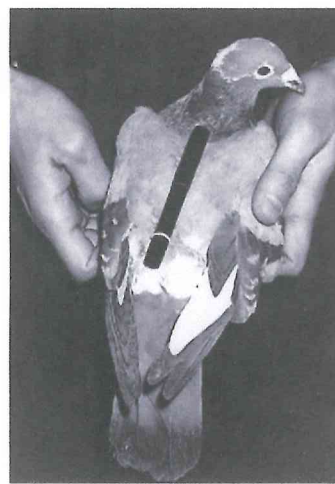
まず「点字」って何
だろう? 点字と
は目の見えな人が
読み取るための6つ
のうき上がった点
の事で、6つの点の
数や場所によって字
などをさわって読み
取っていく。これを「触
読」という。その点字
を使ったのが、「点字
毎日」だ。
創刊は約100年
前の1922年。編集部
にあのヘレン・ケラーも
来たという。昨年に
500号をおかえた。視
覚から80%の情報を
得ているという人間よ
って視覚障害者は、
「情報障害者」と
呼ばれている。そのた
め、「点字」毎日は重
要な情報源なのだ。
同新聞で記者
を務める全
て目の、佐木理人
記者はオンライン
上で二月二十二日
に記者人云見
を開き取材へ行く
時のことを語った。
「初めて行く所は
かりだから、道のり
がわからぬ。人にた
ずねながら行く。」
と。取材からは情
報を届ける熱意
も伝わった。
ぼくの祖母はボ
ランティアで本を
点字にしていた。
「早く読みたい人も
いるから、しめきり
に間に合かわせる
のが大ホタタだ。」
と語った。
新型「コロナウイ
ルス」が流行する今
情報はもとど重
要だろう。これ
からも必要とす
る人のために情
報を届けて
ほしい。
【古岡橋 昂】

伝書鳩の思いなるほドリへ

毎日新聞東京本社、緑豊かな皇居のほとりにある。本社が入るパレスサイドビル(東京都千代田区一ツ橋)の屋上には、6羽のハトの像が置かれている。ビルの設計者からの依頼で制作されたというが、なぜハトの像なのか。
今のように交通や通信が発達していなかった100年ほど前、「伝書鳩」は新聞社にとって重要な通信方法

だった。「伝書鳩」はハトの帰巣本能を活用。東京の各新聞社では100羽以上のハトを屋上で飼っていた。取材現場から原稿を送るときは、ハトを数羽つれていったという。記者は通信用のうすい紙に記事を書き、長さ4センチほどの筒に入れてハトの足につけて放った。写真フィルムは長さ10センチほどの筒に入れ背中にゴムバンドで背負わせた。ハトが

新聞社にもどるとハト係が記事や写真を担当に渡した。ハトたちは原稿やフィルムを何百枚も運んだ。ハトには成績表がつけられ、成績が優秀なハトほど出勤回数が多かった。成績が悪かったハトは、運動会を盛り上げるためにくす玉から飛び出す役をつとめたという。毎日新聞では、東京オリンピックの次の年(1965年)まで大活躍した。「なるほドリ」の尊敬するトリは伝書鳩。ハトたちのがんばりは今も受け継がれている。



背中に写真フィルムをいれる筒を背負った伝書鳩。原稿は筒に入れられた新聞社に戻る時、タカに襲われる危険があり複数の伝書鳩が同じ原稿を運んだ